

## 岐阜県感染症発生動向調査（2018年第49～52週分 12月分）コメント

平成31年1月23日

月番：澤田 明

### <全数把握対象疾患>

- 結核は、発症患者および潜在性結核感染症のいずれも前年同期までの累計と比較し報告数が減少しているが、80歳以上の高齢者についてみると減少とはいえない。
- 四類感染症については、特別多いと思われる感染症はない。
- 五類感染症
  - ✓ 梅毒は、毎週コンスタントに報告されている（20-40歳台に比較的集中している）。
  - ✓ 百日咳は、6例と先月と比較して少なかった（先月14例）。
  - ✓ 風しん、麻しんの報告はなかった。

### <定点把握対象疾患>

- インフルエンザは、52週に著明に増加している（前年同期の1.5倍、前前年と同等）。全国と比較しても岐阜県では多い。
- 感染性胃腸炎は、毎週コンスタントに報告されている。前前年よりは少ないが、前年とはほぼ同程度。
- 伝染性紅斑は、症例数は多くはないが、前年同期と比較すると6450%と多くなっている（前前年比では1612%）。

- ・ 結核は、患者総数は減少しているものの、発症者に占める80歳以上の高齢者に限ると減少していない。引き続き高齢者施設や医療施設への注意喚起が必要である。
- ・ インフルエンザは流行入りしている。県民および医療者への注意喚起が必要である。また無用な外出などは避けるべきなのかもしれない。
- ・ 伝染性紅斑は、前年、前前年と比較し非常に多く報告されている。県民および医療者への注意喚起・情報提供が必要である。